

勝林寺報



災害復興ということ

鳥取真宗寺役員の談話

この度の23号台風で被災された惨状、人ごととは思えません。ましてそこから復興には計り知れぬご苦労のあることとおもいやられ、胸つぶれる思いが致しております。

鳥取は、戦中戦後、ひっかきに震災と大火災に襲われました。またその最中、わたし寺では、ご住職が若い若さんをおいて亡くなりました。坊守さまお一人で、子育てと全焼のお寺の復興再建に取り組みねばなりませんでした。

わたしの寺は「真宗寺」と言います。「真宗の(おみのり)を護持しなければ」という一点で先輩の門徒が一致結束燃え上がりました。

その途次には、もちろんいろいろな障害トラブルがひっきりなく起こって参りました。寺の後継の問題、募財処理をめぐって、さまざま問題が内外でおきました。

それらの障害をかいくぐるようにして今見るような高々とした見事な本堂がこの地にそそり建ちました。先輩ご門徒たちの念力の結晶です。

がしかし、寺の堂宇はかくも見事に再建できたが、一番肝心な「真宗のおみのり」はと問われると、誠に心細く、先人に申し訳なく恥ずかしい気持ちで一杯です。

「今一度、浄土真宗を聞き直してみましよう」

先達への報恩講のご法話は、わたしたちの覚醒への警鐘であったと思います。

被災なされた但馬の皆様へ、「復興再建」のご苦労をお見舞い申しながら、先輩面した口はばったい言い方ですが、「どうぞ(復興の目玉)はお忘れたいたかないよう」人ごとでなくお願い申し上げます。

そのときのご法話のわたしのメモ

「如来の本願を説いて経の宗教とす。」

「ご本願こそ、ひとのいのちの」

どこのつまりのよりどころ

本願・名号は正定業なり。

南無阿弥陀仏とは「いつでも、どこでも、だれでも。見ているよ、知っているよ、呼んでんでいるよ」の如来ご本願の呼び声叫び声。

「悪人も救う」でなくて

「悪人をこそ 救う」が真実の教え

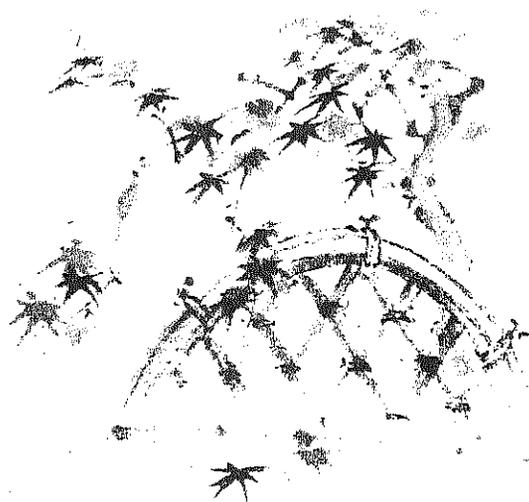


忙しい忙しいと

こころを 忘れ

こころを

こくろーていませんか



葬儀 儀

十一月十六日

榎見

湯湯口

菅鳥子

さま

八十四歳

十二月(しわす)のこよみ

- 一日 唐川報恩講
布教使育成研修会(別院) ◆
- 二日 太田・東里報恩講
宗学院別科 ◆
- 三日 兵庫県PTA
近畿同和教育推進協議会(本山)
- 四日 出合報恩講 ◆
- 五日 蔭山 和子氏宅法事 ◆
兼井 圭二氏宅法事 ◆
- 七日 奥小谷報恩講 ◆
- 八日 沢田こず江氏 宅法事 ◆
保谷・日殿報恩講
- 九日 市場報恩講
障害者の日 ◆
- 十日 小田報恩講
ビハーラ定例研修(別院) ◆
- 十一日 小田報恩講
- 十二日 小田報恩講
- 十三日 日高
△日同役員員会(泊)
- 十四日 野尻・矢根報恩講
- 十五日 矢根報恩講
東里惣講
- 十六日 宗学院別科 ◆
暮坂報恩講
- 十七日 丸中・片間報恩講
アネシス研修
- 十八日 口小谷報恩講
- 十九日 口小谷報恩講
- 二十日 湯口 良明氏宅忌明法事 ◆
日高
- 二十一日 鉢山・豊岡報恩講
- 二十二日 百合・桐野・寺坂・日の辺報恩講
- 二十六日 出石町役場
- 二十八日 みのりを聞く会
- 三十一日 お鏡餅つき
除夜会

ボランティアアさんに 学んだこと

人間にもシッポがあります。
おすまし顔の方ほど、堅いシッポを持っているということ。

とんでもない。なんで人間にシッポがあるものか。何十年昔の類人猿時代の人間ならいざ知らず。現代の洋服を着た人間にシッポがあるなんてとんでもないと思われるに違いない。あるのなら取り出して見せてみよう！

ところが実はあるのです。

どんなシッポ？

へノニ：〜としようシッポ。ノニのしっぽは実は人間だれでも持っているのです。

たとえばお母さんのシッポ。

一塾にも通わせ勉強部屋も与えてあげた。お母さん、あんたのためにこんなにして上げてるのよ。それなノニ、何よ。この成績。」
教育熱心な親であるほど、「してあげてるノニ：〜」というシッポで、わが子をしばきあげているではありませんか。

わたしが妻を愛してやっていると信じている夫。夫のために尽くしてあげているとおもっている妻。

やっているノニ、してあげているノニ。

ノニ、のに、ノニのシッポで、お互いながらあい傷つけあっている夫婦が現にあるではありませんか。



なんで一体、愛しあっている中に、お互い尽くし会っている中に、喧嘩がおき憎しみあいがうまれて来るのでしょうか。

「してあげているノニ」のシッポり仕業でしょう。

蓮如上人は

〈仏法には、まいらせごころわろし〉
と一も戒められました。

「参らせ心」というのは、当時の古い言葉ですが、今のことばでいいなおせば「してあげる」ということばでいいでしょう。

「してあげる」「愛して上げる」「尽くして上げる」。

そんないいところが何で悪いのか。

「我が身あり顔」おすまし顔の人ほど、堅いノニしっぽをもって、人を殴りつけしきあげ放り出し傷つけているのです。

親鸞さまは、そのような人間のありさまを「自力作善」の人と言ひ、また「雑毒の善」ともおっしゃいました。

災害救援に遠方から駆けつけてきてくださった若いボランティアの何人かに、すばらしいことを教えていただきました。

「災害地にご迷惑や負担をかけない。これがわたしたちの信条です」

「わたしの名前なんかいいたくありません。サーときて、うんーと働かせてもらって、スーと去って行く。それだけでいいんです。」

どこでこんな爽やかな若者がそだったのだろう。

ボランティアって、こうでなければと思いました。

これこれ
だれだれに
わたし
が

してあげる。

善意の「を」に（鬼）が
現れますよ。



よびかけ

歳末お鏡餅つき

十二月二十八日

午後二時開始

お鏡もち
除夜会の雑煮もちを
参加ください。
みんなの合力で。



除夜会 (下やえ)

除夜の鐘つき
雑煮接待

奮ってご参加ください

© 仏壮・仏婦より

